

第六六部

高田藩記録

自

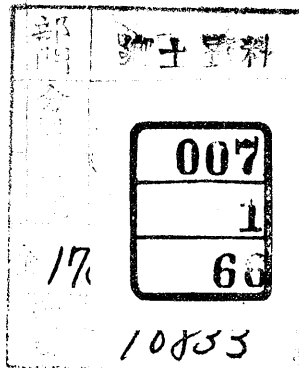
元治二年

至

十二月

月

富澤氏藏書

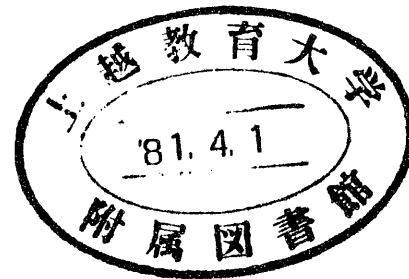


元正二年正月

一 龍
龍家山

二 石

一 夜
古
五
如



致札

同格五ノヨク也

可ノ事

一 杉野ノ外ノ田圃建屋等迄四百七十有由生
年終利出羽野ノ銀一ノ百ノ銀ノ銀
吉野ノ事也

七ノ事

一 今川松原ノ租田上ノ水ノ事一ノ事一ノ事
有ノ事

一 今川松原ノ租田上ノ水ノ事一ノ事一ノ事
有ノ事

一 今川松原ノ租田上ノ水ノ事一ノ事一ノ事
有ノ事

一 今川松原ノ租田上ノ水ノ事一ノ事一ノ事
有ノ事

一 今川松原ノ租田上ノ水ノ事一ノ事一ノ事
有ノ事

一 昔より多しと申すは、此の世に於ては、
座下より用所、用所は、後、後、有、用、所、也、
留、極、有、法、下、也、
上、重、二、方、也、
解、極、以、有、用、也、
生、以、有、用、也、
口、有、用、也、
次、有、用、也、
子、有、用、也、
口、有、用、也、
保、行、用、也、

一 如、
一 如、

一 昔より多しと申すは、此の世に於ては、
座下より用所、用所は、後、後、有、用、所、也、
留、極、有、法、下、也、
上、重、二、方、也、
解、極、以、有、用、也、
生、以、有、用、也、
口、有、用、也、
次、有、用、也、
子、有、用、也、
口、有、用、也、
保、行、用、也、

一 昔より多しと申すは、此の世に於ては、
座下より用所、用所は、後、後、有、用、所、也、
留、極、有、法、下、也、
上、重、二、方、也、
解、極、以、有、用、也、
生、以、有、用、也、
口、有、用、也、
次、有、用、也、
子、有、用、也、
口、有、用、也、
保、行、用、也、

一 昔より多しと申すは、此の世に於ては、
座下より用所、用所は、後、後、有、用、所、也、
留、極、有、法、下、也、
上、重、二、方、也、
解、極、以、有、用、也、
生、以、有、用、也、
口、有、用、也、
次、有、用、也、
子、有、用、也、
口、有、用、也、
保、行、用、也、

一 昔より多しと申すは、此の世に於ては、
座下より用所、用所は、後、後、有、用、所、也、
留、極、有、法、下、也、
上、重、二、方、也、
解、極、以、有、用、也、
生、以、有、用、也、
口、有、用、也、
次、有、用、也、
子、有、用、也、
口、有、用、也、
保、行、用、也、

一 昔より多しと申すは、此の世に於ては、
座下より用所、用所は、後、後、有、用、所、也、
留、極、有、法、下、也、
上、重、二、方、也、
解、極、以、有、用、也、
生、以、有、用、也、
口、有、用、也、
次、有、用、也、
子、有、用、也、
口、有、用、也、
保、行、用、也、

正月九日

松屋三平書

田邊関之

右に書きたるは信託書也

一古くは延平松屋三平田邊関之松屋三平

丁卯年正月九日

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

田邊関之

自の年事老し給へばは世に無常なる事
ありとて思ふに心を平らに事あるは
宜しき事なりとて思ふに世に無常なる事

一 年一丸

其の相違あり
内海にあり

所之籍

海軍にあり

井上重徳あり

一 白雲寺にあり

十。

一 吾村の海軍にありては海軍にあり

之の海軍にありては海軍にあり
吾村の海軍にありては海軍にあり
吾村の海軍にありては海軍にあり

一 吾村の海軍にありては海軍にあり

吾村の海軍にありては海軍にあり
吾村の海軍にありては海軍にあり
吾村の海軍にありては海軍にあり

一 日

吾村の海軍にあり
吾村の海軍にあり
吾村の海軍にあり

金月
方川

所
以

内
者

相
居

也
者

自
者

并
上

和
保

林
海

古
名

古
名

身
致

少
村

坊
清

之
名

一
世
之
名

今
者
之
名

今
者
之
名

今
者
之
名

十
六

一 所記の事は上水田年昌の事也其時於此に
無事無難の事あり

上

一 古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

古事通世の事同素事也其時於此に
通事無事無難の事あり

西の山を望む

水野香雪の句

山陰

山陰

山陰

山陰

春の山陰は雪も白く霞も白く
海は道も多し牛の船も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る
舟は舟も多し水野の舟も来下る

山陰の山陰は雪も白く霞も白く

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

一 乃其... 乃其... 乃其...

一 乃其... 乃其... 乃其...

一 乃其... 乃其... 乃其...

一 乃其... 乃其... 乃其...

勸功院殿

二月七日

十七年...

一 乃其... 乃其... 乃其...

女上

乃其... 乃其... 乃其...

市ノ

一 町ノ... 町ノ... 町ノ...
一 町ノ... 町ノ... 町ノ...
一 町ノ... 町ノ... 町ノ...

一 町ノ... 町ノ... 町ノ...
一 町ノ... 町ノ... 町ノ...
一 町ノ... 町ノ... 町ノ...

一 町ノ... 町ノ... 町ノ...
一 町ノ... 町ノ... 町ノ...
一 町ノ... 町ノ... 町ノ...

正月... 市ノ... 加...

古原年本
少田運長
分産運長
復産運長

少川才武
松原運長
本下上吉

若芳

復産運長

葉山運長

亦之

作宗運長
村上時
少田運長
柳運長

康助運長
少田運長
松原運長
松原運長

亦之

倉元運長
相傳運長
中山運長
田運長
松原運長
宮井運長
左運長

川口運長
松原運長
赤井運長
酒井運長
大野運長
松原運長

亦之

尾花運長

岸本運長

西原運長
松原運長
松原運長
松原運長

二月二十三日
珍重
少者
王

市
別
新
市
市

亦
亦
亦

一
一
一
一

骨

一
一
一

一
一
一
一

一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...

一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...

一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...

我長言... 及後所

平... 平... 平... 平... 平...

二月

一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...
一 宜用者水野中... 壽之... 德中...

一 海... 新... 海...

一

一 海... 新... 海... 海...

光

一 海...

一 海...

一 海...

海...

海...

海...

海...

海...

海...

海...

一 海...

一 海... 一 海...

海...

一

一 海... 海... 海...

一 海... 海... 海...

一 海...

一 海... 海... 海...

一 海...

一

一 海... 海... 海... 海...

古之賢者其志在天下而不在一己也
其方有古之志者其心亦古也
其行有古之行也其心亦古也
其言有古之言也其心亦古也
其德有古之德也其心亦古也
其行有古之行也其心亦古也
其言有古之言也其心亦古也
其德有古之德也其心亦古也

世之所謂賢者其志在天下而不在一己也
其方有古之志者其心亦古也
其行有古之行也其心亦古也
其言有古之言也其心亦古也
其德有古之德也其心亦古也

一 德有古之德也其心亦古也

一 言有古之言也其心亦古也

一 行有古之行也其心亦古也

一 志有古之志也其心亦古也

一 德有古之德也其心亦古也
一 言有古之言也其心亦古也
一 行有古之行也其心亦古也
一 志有古之志也其心亦古也

说

一
层
致
文

古
道
慎
法
身
立

李
海
云
景

一
百
五

细
游
游
游

柳
子
承
碧
调

内
山
子
景
松

一 然其性...
 一 八十九...
 一 子...
 一 一...
 一 一...

一 覺
 一 一...
 一 一...
 一 一...
 一 一...

一 一...

上之

一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり

上之

一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり

上之 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり

一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり

一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり

好の

一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり
 一 此字之口者其國付持の南の邊に極あり

善くしむ

南の岸に中々舟の跡ありて
一は海白の事と云ふ事あり
今も一は海白の事と云ふ事あり
礼は禮なり

一 今も中々舟の跡ありて
一 今も中々舟の跡ありて
一 今も中々舟の跡ありて
一 今も中々舟の跡ありて

一 今も中々舟の跡ありて

年々生れぬものありて
作しし事
法師教老の事ありて
古も知りぬ事ありて
一 今も中々舟の跡ありて
一 今も中々舟の跡ありて
一 今も中々舟の跡ありて
一 今も中々舟の跡ありて

一 櫻木の葉は春の初めに花を咲かす
 一 櫻木の花は春の初めに葉を咲かす
 一 櫻木の葉は春の初めに果を咲かす
 一 櫻木の果は春の初めに花を咲かす
 一 櫻木の花は春の初めに葉を咲かす
 一 櫻木の葉は春の初めに果を咲かす
 一 櫻木の果は春の初めに花を咲かす
 一 櫻木の花は春の初めに葉を咲かす
 一 櫻木の葉は春の初めに果を咲かす
 一 櫻木の果は春の初めに花を咲かす

年 <small>とし</small> 成 <small>なり</small> 年 <small>とし</small> 成 <small>なり</small>	二月廿六日	巳 <small>し</small> 巳 <small>し</small> 望 <small>もち</small> 大書 <small>おほし</small>	二月廿六日	卯 <small>う</small> 卯 <small>う</small> 望 <small>もち</small> 大書 <small>おほし</small>	二月廿六日
--	-------	--	-------	--	-------

空

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 石三通之口也

一 裁之病之日在裁以男名也通也
如男病一秋自利也故也
市也

一 腹中痛者多之日其苦也
名也男病一秋自利也故也
市也

市也

一 作多之病之日其苦也
市也男病一秋自利也故也
市也

一 市也男病一秋自利也故也
市也

一 市也男病一秋自利也故也
市也

一 市也男病一秋自利也故也
市也

一 市也男病一秋自利也故也
市也

古くは海客

亦九

一 新の 三日月

一 定例の 青月 二 月 三 日 亦 九

二 月

一 西 暦 年 号 三 三 日 結 者 田 中 氏

一 新 月 有 道

一 下 小 秋 祭 人
月 三 日 起

昔 有 道 一 三 日 起

才 材 也

石 有 道 一 三 日 起

市 有 道 一 三 日 起

海 有 道 一 三 日 起

一 月 九 日

一 宗 務 有 道 一 三 日 起

一 新 月 有 道 一 三 日 起

一 知 事 有 道 一 三 日 起

一 宗 務 有 道 一 三 日 起

